

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 19 日現在

機関番号：31302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21730458

研究課題名（和文）特別養護老人ホームにおけるユニットケアの職員配置に関する社会学的研究

研究課題名（英文） Sociological research of arrangement of care staff in special nursing home for the elderly

研究代表者

菅原 真枝（SUGAWARA SANAÉ）

東北学院大学・教養学部・准教授

研究者番号：50359501

研究成果の概要（和文）：

わが国の特別養護老人ホームにおいてスタンダードになりつつあるユニットケアを、それを規定する諸要因に注目しながら社会学的に分析することを目的として、宮城県内の複数の事業所において職員配置に関するデータ収集をおこなった。また介護職員、利用者、家族、周辺地域住民、関係諸機関等を対象に聞き取り調査を実施した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to analyze some factors regulating arrangement of care staff of Unitcare in special nursing home for the elderly. Quantitative data of personal distribution on some facilities has collected. On the other hand, qualitative research which was subjected to care workers, residents, his/her family and surroundings was carried out in details.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	550,000	165,000	715,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,950,000	885,000	3,835,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：ユニットケア、職員配置

1. 研究開始当初の背景

従来のユニットケア研究は、方法論の検討や実践報告が多く、その制度的問題や理念的パラダイムが議論の対象となることがほとんどであった。数少ない学術的研究は個別事例を比較する水準にとどまり、ユニットケアを類型化して分析する手法に欠けていた。そこで研究代表者はユニットケアの類型化に向けた研究に着手した。その結果、それぞれの施設形態においてユニットケアの職員配置に特徴的な差異がみられることを発見し、

それらの差異が何に起因するものなのかを明らかにする必要性を導き出した。ユニットケアの質を左右する職員配置について、それを規定する社会的要因を明らかにするという新たな課題が浮き彫りとなった。

2. 研究の目的

わが国の特別養護老人ホームにおいて制度化され施設介護の潮流として定着しつつあるユニットケアを、職員配置の観点から分析することにある。

3. 研究の方法

(1)ユニットケアを施設介護の完成形として一様に捉えるのではなく、施設形態（新築型、改修型、既存型）ごとに職員配置の比較分析をおこなった。

(2)介護職員を、雇用形態や年齢、職歴といった基本属性により分類し、分析単位とした。

(3)職員配置をたんなる数値のみで捉えるのではなく、当該ユニットを構成する最も重要な要素として位置づけ、職員配置の質的構成やその構成に影響をおよぼす社会的諸要因を析出するとともに、その変容のプロセスを分析した。

(4)そのための具体的な方法として、宮城県内の複数の事業所において職員配置に関するデータ収集をおこなった。また介護職員、利用者、家族、周辺地域住民、関係諸機関等を対象に聞き取り調査を実施した。

4. 研究成果

(1)社会福祉法人 A が運営する事業所（新築型として特別養護老人ホーム U、従来型として特別養護老人ホーム S）と、社会福祉法人 B が運営する事業所（新築型として特別養護老人ホーム M、改修型として特別養護老人ホーム H）を主な対象として、職員配置の分析をおこなった。法人 A および B の歴史、法人がそれぞれに現在運営している事業所の全体および職員体制、各事業所における職員配置等に関するデータを収集したうえで、それぞれ対象となる事業所の職員配置の分析をおこなった。とりわけ法人 A の従来型の S と法人 B の新築型の M においては、介護職員の業務内容および入居者とのコミュニケーションに関するタイムスタディを実施するとともに、介護職員及び入居者に対して聞き取り調査をおこない、そのデータを整理し分析した。

(2)社会福祉法人 A では、平成 22 年 1 月よりインドネシア人介護士の受け入れを、宮城県内の福祉施設としては初めて実施している。外国人介護士の導入が職員配置のありかたどのように影響するか、それに伴いユニットケアの質がどのように左右されるのかについて明らかにする必要性が生じてきた。そこで我が国における外国人介護士の受け入れに関する資料を収集するとともに、関係者への聞き取り調査を開始した。法人 A の理事長および実質的な受け入れ業務を担当している職員を対象に複数回にわたる聞き取り調査を実施した。法人 A が運営する従来型の特別養護老人ホーム S および養護老人ホーム S においては、当初インドネシアより介護福祉士候補生 4 名が日常的な介護業務に従事していた。そこで、彼らの基本属性をはじめ、来日の背景や資格取得の状況、キャリアの連

続・非連続、勤務体制および待遇のありかたなどについて、基礎的データを収集した。また、ユニットにおける業務実態を明らかにし、職員体制においてどのような位置を占めているかを明らかにするため一定期間にわたるタイムスタディ調査を実施した。加えて 4 名に対して複数回にわたる聞き取り調査をおこなった。そのさい同時通訳を依頼した。聞き取りした録音データはテキストに書き起こすとともに、基本属性をはじめ、来日の背景や資格取得の状況、キャリアの連続・非連続、勤務体制および待遇、宗教生活などについて対象者ごとに比較し分析をおこなった。来日のきっかけはそれぞれであるが、主たる目的は収入を得ることであり、現在の仕事や生活環境に満足を示しながらも日本での国家資格の取得や滞在の継続はそれほど重要視されていなかった。結婚や母国にいる両親との関係も、日本での長期滞在が考えられない理由のひとつとなっていることを明らかにした。

(3)社会福祉法人 A が運営する新築型 U および従来型 S においては、入居者の生活の質の向上をねらいとして、各事業所における信仰の場（神社や観音、地蔵）の設置に取り組んでいる。そこでスピリチュアルケアについての文献収集をおこなったうえで、法人 A の事例について資料収集および関係者への聞き取り調査を実施した。設置の経緯やその後の維持方法、入居者にとって果たしている機能等に関して情報収集をおこない、施設職員ならびに入居者、地域住民への聞き取り調査を実施した。その成果は論文にまとめ公表した。

(4)社会福祉法人 B が運営する新築型 M を対象に、ユニットケアと地域社会との関係性に焦点をあてた聞き取り調査を実施した。管理者、介護職員、入居者、新築型 M の入居者らが加入している町内会、新築型 M が所在する C 郡 D 町保健福祉課を対象として重点的に聞き取りをおこなった。新築型 M が平成 13 年に開所してからの 10 年余りの歩みを整理し分析することにより、M がどのような職員配置のもとにユニットケアを維持し、また地域社会との関係を展開してきたかについて考察し、論文として著した。ユニットケアは、大規模で隔離型の収容施設というイメージを脱却し、小規模な居住空間や顔馴染みの人間関係、家庭的な雰囲気といった在宅に近い生活環境をつくりだそうとする脱施設化の試みとして位置づけることができる。新築型 M もまた、施設の脱施設化を、「近所づきあい」や「友達づきあい」に象徴されるような地域社会との関係性の構築をとおしていち早く実現し、特養と地域生活の断絶を根本から打ち砕く取り組みをおこなっている。この分析

により新築型 M におけるユニットケアの職員配置に影響を及ぼす社会的要因を分析し、特養における地域生活支援がいかなるものなのかについて考察した。

(5) 社会福祉法人 B が運営する新築型 M におけるユニットケアは、正規職員のみならず非正規職員をも含む多様な就業形態にもとづくケア労働により運営・維持されている。ここでいう非正規職員には、主婦層を中心とするパート職員や派遣社員、アルバイトが含まれる。そこで新築型 M より人事資料を提供してもらい、介護職員の多様な勤務形態に着目しながら、職員配置の質的構成がいかに変容し、また維持されてきたかの分析に着手した。合わせて介護職員を対象に聞き取り調査を開始した。新築型 M が開所した平成 13 年以来、延べ 100 名程度の職員が入れ替わるなかで、唯一、主婦層であるパート職員たちが長年にわたり勤務を継続している。しかも彼女たちが、離職の激しい若手の正規職員の教育者となり、施設理念の継承と具体的なケア技術の再生産を可能にしていることが明らかになった。正規職員と非正規職員が混在し、ときには文化の違いを超えて提供される多様なケア労働の実態に迫ることにより、そうした職員配置の質的構成がいかにケアの質を維持しあるいは向上させうるかを検討していく必要性が導き出された。

(6) 上記の研究内容に関連する基礎資料や先行研究、文献等を継続的に収集し、整理した。第一に、対象となる法人に関する歴史的資料や各事業所の基礎的データ、各事業所が設置されている自治体に関する一次資料等について広範囲にわたり収集し、整理した。第二に、我が国における経済連携協定にもとづく外国人介護士受け入れに関する基礎資料と先行研究の収集と整理をおこなった。インドネシア社会の宗教や民族・社会状況、日本におけるインドネシア人居住者の状況、宮城県における多文化共生社会推進の状況等に関する一次資料や研究論文、文献の整理検討をおこなった。第三に、ユニットケア・個別ケアの全国的な実施状況や、介護労働の実態にかかわる統計調査の結果を表した報告書や先行研究、各種文献等を入手し、整理・検討をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 菅原真枝、老人ホームにおける社・地藏・観音——社会福祉法人「宮城福祉会」お

よび「敬長福祉会」の事例、人間情報学研究、査読有、15 巻、2010、111-124 頁。

- ② 菅原真枝、介護老人福祉施設における地域生活支援——特別養護老人ホーム「杜の風」の一〇年、社会学研究、査読有、92 号、2013、61-90 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅原 真枝 (SUGAWARA SANAE)
東北学院大学・教養学部・准教授
研究者番号：50359501

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし